

別紙1. ポートフォリオ分析について ①

○ 評価項目

行政施策貢献度の評価項目

評価軸	補助軸	評価項目	説明
行政 施策	方針	経営戦略反映度	現時点で明示されている行政経営戦略・課題との整合度合い
		利用部門ニーズ反映度	現時点で明示されているシステム利用部門からの要望へのシステムの実現度合い
		経営者アプリケーション効果認知度	アプリケーション効果についての行政経営層(部長以上)または財政当局の理解度合い
	効果	財政貢献	収入拡大およびコスト削減効果
		業務プロセス貢献	業務の簡素化、品質向上等の業務プロセスへの貢献度合い
		住民満足度向上	住民満足度向上に貢献しているか
		職員満足度向上	利用職員のスキル向上、モチベーション向上に効果があるか
		サービス力	新サービスの提供や既存サービスの品質向上に効果があるか
	リスク	法／制度対応性	法／制度との関係、影響の受けやすさ
		ミッションクリティカル性 注1	システムの停止が与える影響の大きさ
		関連機関・事業者への影響	関連機関・事業者との関係への悪影響要素を有しているかどうか
		稼動リスク	稼動していることが業務上で悪影響を与えていないか

注1) ミッションクリティカル性... 基幹システムが、24時間365日、正常に機能し続けなければならないこと

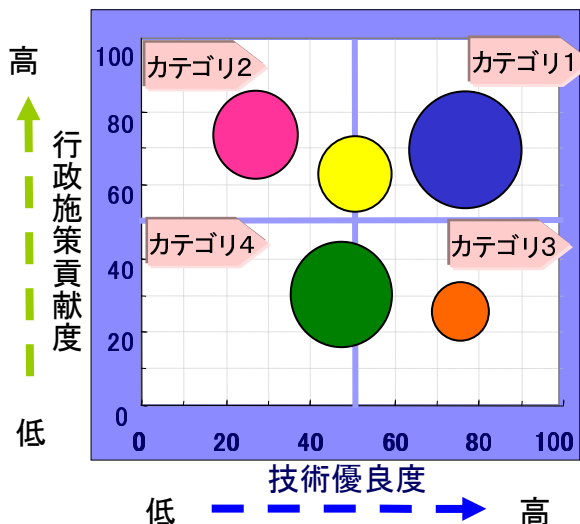
技術優良度の評価項目

評価軸	補助軸	評価項目	説明
技術	方針	方針整合性	技術方針との整合性
	効果	先進性	先進的技術の適用度合い
		信頼性	障害になり難さ、障害発生時の全面修復のしやすさ
		使用性	使い勝手の良さや習得の容易さ、および運用や管理の容易さ
	リスク	継続性	システム障害後も合意されたレベルでの業務の継続のしやすさ、および業務上の変更に対する制限の少なさ
		安全性	特定の人のみが特定の時に特定の情報のみ確実にアクセスできる機能があるか
		保守性	システムの変更・保守のしやすさ、保守する体制・環境の整備度合い
		移植性	別環境への移しやすさ

別紙1. ポートフォリオ分析について ②

○ 分析結果の見方

<ポートフォリオの見方>



<円グラフの見方>



<カテゴリの意味>

- | | |
|-------|---|
| カテゴリ1 | 最適アプリケーション
効果を発揮し、技術面も良好 |
| カテゴリ2 | 技術不安アプリケーション
アプリケーション品質／将来性に不安あり |
| カテゴリ3 | 貢献不足アプリケーション
行政経営戦略に見合う効果を発揮していない |
| カテゴリ4 | 重症アプリケーション
行政施策貢献、技術両面に問題あり |

<全体評価を見る際の注意事項>

図中のバブル位置は、現状の重視度に対して、どのくらい各システムが整合しているかを表しています。

各システムの間で、図中のバブル位置を比較することが必要です。カテゴリ4(重症)の領域に位置しているからといって、単純に「悪いシステム」と判断するものではありません。

例えば、人事・給与システムなど内部向けシステムの場合、システムとしては活用されていても、住民満足度向上や財政貢献に業務特性上寄与しておらず、バブルの行政施策貢献度の位置は低くなります。この場合、このシステムは現在の重視度に対して位置が低いことは問題ではなく、妥当であると判断することができます。(個別評価の各評価項目の得点の状況が重要になります。)